

友の会会報

追悼 山形県立博物館友の会会長石島庸男先生

石島庸男先生と教育資料館

学芸員 青木章二

昭和55年(1980)に開館した教育資料館は、今年30周年を迎える。先頃ご逝去された石島庸男先生には、開館当初から、展示全般に関わる監修者としての立場から時代考証などを手がけていただいた。開館後も、とりわけ資料の収集にはお力をいただき、現在まで先生からの寄贈資料は15,000点以上を数える。石島先生には、有形無形に多大なご貢献をいただいた。

私と石島先生とのお付き合いは、私が教育資料館に赴任して以来のことなので、10年近くになる。大学に居られる頃の先生は、1か月に1度ほど、ふらりと来館されては、お茶を飲みながら様々な話をされていくのだった。その時は決まって、紙袋やダンボール箱に入った手土産(とはいっても教育関係の資料)を持参されるのが常だった。教育史については、まったくの門外漢であった私にとって、石島先生とお茶飲み話が授業だった。先生が山形大学の理事に就任された時は、独立行政法人化の移行期であり、多忙をきわめた様子であった。ある時、かつて寺子屋を営んでいた旧家のお蔵探検にお誘いすると、忙しい日程をやりくりして同行していただいた。埃まみれになりながら、資料の山を前にした先生の生き生きとした表情は、忘れ難い思い出である。

退官後、石島先生の発案で勉強会をやるということになった。メンバーは、石島先生、大塚浩介先生、伊藤寛先生、私の4人。勉強会とはいってもお茶飲み話の延長のようなもの。2ヵ月に一度、資料館に集まり、銘々が順番に話題提供をしていくというものだった。私以外の3先生はいずれも山形県教育史の大ベテランであり、専ら私が聞き役だった。私の拙い発表も石島先生は大きく頷きながら聞いてくださるのであった。先生が体調を崩されてからは、会も中断することになったが、今となっては先生から聞いておきたいことや



教育資料館

教えていただきたいがたくさんあったと悔やまれるばかりである。

先生が亡くなる直前の10月頃、教育資料館にもう一度行きたいと病床でしきりにおっしゃっていたということをご遺族からお聞きした。石島先生にとって教育資料館は、さながらご自分の子どものような思い入れの深い存在であったのだろう。

石島先生ともに、開館 30 周年を迎えることができないのは残念であるが、館をますます発展させていくことが、石島先生のご恩に報いることであると思う。

石島先生、長い間ありがとうございました。先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

会長石島庸男先生の思い出

友の会事務局（前教育資料館嘱託） 野尻 侃

平成 20 年 5 月 31 日に「博物(文化の諸領域資料)についての教養を高め合う人たちが集まろう」として、県立博物館をサポート（応援）する新たな友の会が設立されました。初代会長には前山形大学副学長の石島庸男先生が就任し、会の先頭に立つことになりました。

本格的な友の会設立については、県立博物館の副館長であった田中信雄さんが、博物館の存在を県民に知らしめる一つとして以前から考えていたことでもありました。しかし田中さんは志半ばで永眠されました。（田中さんについては、幹事である佐藤庄一さんが友の会会報第 2 号に載せています。）このおもいを引き継いだのが石島先生で、田中さんがお亡くなりになった年に新たな友の会が設立されたのでした。私は教育資料館にお世話になっており、友の会が設立されたということで応援団の一人として入会させていただきました。そのころ石島先生は、折を見ては徒歩で教育資料館においでになりました。私は、「あ、先生が来た」と声を出して館内の職員に来館を伝えるようになっていました。先生はよく青木先生と教育資料の取り扱いや管理・保存のありかたなどを話しており、私はしばしばそれに耳を傾けるようになっていました。先生はニコニコしながら話しをしたり、また真剣な口ぶりで議論していたことが思い出されます。山大教育学部長であった先生が、こんなにも真剣に教育資料館のことや友の会のことを話されるのは素晴らしいことだと感じていました。暖かい季節になり、資料館の前に咲いているコブシの花や桜を見ながら、受付の川合さんと私に話しかけてくれたこともありました。

私が友の会に入会して間もなく、石島先生は身体に異常が見つかったとのことで検査入院をし、10 月には山形大学附属病院に入院することとなりました。私も体調を崩し同じ山大附属病院に入院し、時間を持て余しリハビリを兼ねて病院内を歩き回っていたとき、石島先生が 4 部屋隣りにいることがわかりました。すでに面会謝絶の札が架かっており、病棟の婦長さんに先生の病状を伺ったところでした。それからは、先生の回復を祈りながら毎日のように病室の前を行き来しましたが、11 月 8 日の早朝に永眠されたことを知り愕然としたのが、昨日のこのようによみがえってきます。まだ 68 歳という若さでした。先生が企画された第 1 回目の「私の宝物」展がまもなく開催の運びになることを、知らせることができなかったことが悔やまれます。私も入院中の身であり、12 日の葬儀に参列出来ない自分に腹を立て、自分の病状を忘れたところでした。

先生は地域を愛し、人々との出会いを大切にさまざまな活動をしてこられました。私も先生のおもいを受け継ぎながら友の会の一員として活動して参ります。

合掌

石島先生と玉井先生と栗田さん

友の会事務局 野口一雄

2007年のいつ頃だったか、石島先生のお宅にお電話を差しあげた。山形県立博物館友の会を正式に立ち上げたい、その会長になっていただけないかとのお願いのためでした。先生は、山形県立博物館教育資料館の立ち上げに関わり、開館後も幾度となく教育関係資料を寄贈され、陰に陽に教育資料館の活動を応援されていました。後日返事する、とおっしゃるかなと思っていたが、その場で快諾してくださったのでした。

翌年6月の設立時には「山形県の寺子屋を追って（1）」を、10月には「山形県の手習所を追って（2）—教科書（往来物）を中心に—」の講演をしていただき、第3回目の2月には「筆子の生活・入門から卒業まで」の講演予定でした。先生が体調を崩されて話をすることが叶わなくなったとの連絡をいただいたのが、3回目の講演の前月でした。

石島先生を知ったのは27・8年程前、すでに鬼籍に入られているお二人を通してでした。一人は当時教育資料館に勤めていた玉井茂先生です。玉井先生は県内発行の「往来物」など、近世期教育関係資料の発掘に情熱を傾けていました。

石島先生から玉井先生への、次のような手紙のコピーが手元にある。先生が9月1日から東大史料編纂所に内地留学する前に出されたものである。

（前略）さて、興奮させるに十分な史料コピー2点ありがとうございました。暑い中で夢中で読みました。おかげさまでシャンとしました。（略）昔家永三郎氏ゼミで自由党史受けていたので、ひっくりかえしてみましたら、p184-189に「岩倉公實記」下、からと出ておりました。板垣の上書は明治八年十月十二日付でコピー12月10日の十二と十がひっくりかえています。（略）本物なら自由民権家示野潤（高知—東京—山形）、御用記者あたりが保守的？な山形に板垣のこうしたものをもってきて組織しようとした材料に使ったのか。朱は後に再上奏してまきかえしに使うためのことも、あるいはあったか（とすると一寸した歴史のかきかえが・・・たいしたことではないが）必要となってくるかもしれません（以下略）

もうお一人は栗田幸助さんである。栗田さんは県内の和本を精力的に調査し、平成3年（1991）3月28日に『山形県内版 和装本目録 第一集（昭和30年代まで）』を発行した。編集人のお一人が石島庸男先生でした。第二集の発行は1992.3.31で、編集人は石島、栗田ほか2名の計4名でした。第三集は1993.3.1、編集人はお二人のほか3名の計5人です。その3冊を基に平成6年（1994）3月、県内で初めてとなる『山形県内出版 和本・和装本目録稿』が出版されました（発行所：栄文堂書店）。編集後記に石島先生が次のように記しています。

（前略）最後に栗田さん。病をおし県立（目録と現品）、酒田、鶴岡市立図書館等の目録を全部見て、これらと思う本をカードに記せるだけ記し、それぞれへ郵便で問合せ、少しでもこの目録稿を豊かにしようと努力された過程に頭が下がる思いがする。最終の編集までしていただいて、春とともに大回春を祈るものである ’ 93.12.末

共同企画展「私の宝物」来館者感想ノートより

「私の宝物」展をご覧になった方はお気づきかもしれませんが、展示室内に「感想ノート」を設置しました。展示をご覧になっての感想などを自由にご記入いただきました。その中の一部を紹介します。友の会のこれからの活動にも活かせる、貴重なご感想を多数いただきました。閉展まで設置していますので是非ご記入いただければと思います。

○ 「私の宝物」展オープンおめでとうございます。

どのような展示なのか楽しみにしていました。とてもやわらかいイメージでとても楽しくなる展示と思います。

○ せっかくのコレクション・お宝だが、「わが家」や「わたし」が誰なのか、ストーリーがなく、モノの背景がわからないのがもったいない。またぜひ改善してこのような市民参加の展示を続けてください。

○ おもしろい企画である。より幅広く又企画して欲しいもの。歴史的事実のものが望ましいと思う。



共同企画展「私の宝物」



ミニ解説会

○ すばらしい企画展。もっと宣伝して多くの皆さんに見ていただきたいものです。

○ 今日は来て見せていただいてとてもよかったです。又、2・3回目も続くといいと思います。

○ 旧家に伝わるすばらしいお宝、自分も実際使ったなつかしいお宝の数々を見せていただきました。

○ 見ていてほのぼのしておもしろかったです。

【事務局より】

第1回共同企画展「私の宝物」は無事終了の運びとなりました。関係者の皆様にお礼申し上げます。

本共同企画展は、石島先生の発案でした。先生からいただいた素案には、目的として「資料をもちより、その資料の見方をはじめ、鑑賞しあい、会員の教養をたかめ、相互に学習しあう」とありました。第1回目の「私の宝物」展かならずしも先生の意図していたものではなかったかも知れません。後日、総括をふまえながら先生のおもいを受け継ぎ次年度の共同企画展に生かしていきたいと思っています。

【平成21年度 第3回友の会講演会】のご案内

内 容：『私の宝物展』－展示資料を読み解く、資料を巡る討議－

期 日：2月13日（土）午後1時15分～2時45分

場 所：山形県立博物館講堂